

母女院は中宮璋子と申き、公實大納言の第三女、鳥羽院の位におはしまし、とき、法皇河○白の御
むすめとてまゐり給へりき、此みかど略○中 保安四年正月廿八日位につかせ給、略○中 御母女院な
らぶ人なくしておはしまえ、かば、御せうどの侍從中納言さねたか、左衛門督みちすゑ、右衛門督
さねゆき、左兵衛督さねよしなど申て、みかど略○の御をぢにてなをしゆるされてつねにまゐり給
其きんだち近衛のすけにてあさゆふさぶらひ給

聽入臺盤所

〔禁秘御抄中〕被聽臺盤所人事

無何万人亂入、尤不可然事也、執柄人并子息ナドハ勿論、其外殊難去大臣納言之間、兩三人可足、而

近代旁子細面々所望之間及數輩、御乳母父必聽、御外舅勿論、略○中 崇德後白河御時、實行兄弟不及

左右、又高倉院御時、時忠、院鳥羽信清、當時德順 範茂、雖難比彼等聽之、

〔禁秘御抄階梯中〕實行兄弟公實卿男、實隆、實行通季、實能、實兼、季成等兄弟、共待賢門院御連枝也、

爲崇德院御外舅也、時忠、平時、信公、男、建春、門院御連枝、爲高倉院御外舅也、信清、信隆、卿男、七條院

御連枝、號太秦内大臣、爲後鳥羽院御外舅也、範茂、範季、公二男、修明、門院御連枝、爲順德院御外舅

也、

〔枕草子〕清凉殿のうしどらのすみの北のへだてなる御さうじには、あらうみのかた、いきたる
物どものおそろしげなる、手ながあしながをぞかゝれたる、うへの御つばねの戸おしあけたれ
ば、つねにめに見ゆるをにくみなどしてわらふほほに、かうらんのもとにあをきかめの太なる
すゑて、さくらのいみじくおもえろきえだの五尺ばかりなるを、いとおほくさしたれば、かうら
んのもどまでこぼれさきたるに、ひるつかた大納言殿伊藤藤原さくらのなをしすこしなよ、
かなるに、こきむらさきのさしぬき、えろき御ども、うへにこきあやのいとあざやかなるをい
だしてまゐり給へり、うへ條一のこなたにおはしませば、戸ぐちのまへなるほそきいたじきに